

平成30年度学校評価報告書

平成31年3月15日

苫小牧市教育委員会教育長 様

苫小牧市立清水小学校長

松井操人 印

次のとおり平成30年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

①確かな学力の向上 ②豊かな心の育成 ③生徒指導の充実 ④健康・安全教育の充実
⑤特別支援教育の充実 ⑥教育公務員としての資質・能力の向上 ⑦開かれた学校づくりの推進

※本年度の学校経営テーマ「A9でつながる『チーム開成校区』」で、特に①確かな学力の向上・②豊かな心の育成・④健康・安全教育の充実・⑤特別支援教育の充実・⑦開かれた学校づくりの5項目については目標を共有してチームとして取り組んできた。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	B：おおむね達成している	B：ほぼ適切な評価
改善方策 ①学テ分析	<p>・平成30年度全国学テでは、国語・算数・理科のすべての教科で全国平均を上回った。また、苫小牧市統一学テでは、4、5年の国語および算数ともに全国平均を下回ったが、6年では国語および算数ともに全国平均を上回る結果だった。</p> <p>・各種テスト結果から、文章問題の読み取り不足や自分の考えをまとめる力が不足しているため、読解力の底上げのために読書を習慣化させ、授業の中で意見を考えて書く場面を意図的に設定して表現力の向上を図る。また、各都道府県で出されているチャレンジ問題等、類似の問題に取り組ませる。</p>	<p>・各種テストの分析をきちんと検証し、教職員が課題について共通認識を持つことが大切である。読解力の底上げや考えをまとめる力を身に付けることは難しいが、地道に取り組を進めることが大切である。</p>
②学力向上 ・授業改善	<p>・苫小牧市の共通取組事項「焦点化」「イメージ化」「視覚化」を意識した授業改善ができた割合が88.9%だった。</p> <p>・授業で思いや考えを説明したり発表したりする場の工夫ができた割合が84.6%となった。</p> <p>※上記の2項目について、今年度の結果をふまえ、次年度の数値目標は90%以上とする。</p> <p>・算数科において指導方法工夫改善の加配の教員を活用し、習熟度別少人数指導を140時間に増やし、より個別に指導に当たる場面を増やす。</p> <p>・計画的に全国学テやチャレンジテスト、各都道府県のテストの過去問題に取り組み、正答率全国平均以上、無答率を5%以下とするという数値目標を掲げて取り組む。</p> <p>・年度当初に家庭学習の手引きを配布し、参観日後の学級・学年懇談で随時説明し、家庭と連携した家庭学習の取組を進めてきた。家庭学習の取組について、アンケートでは、児童83.1%、保護者78.9%が肯定的で、学習時間についてのアンケートで、目標達成が63%だった。</p> <p>・読書活動については、12月末現在で約9500冊の貸出数があり、1人当たり41冊の貸出となっている。家での読書は保護者アンケートで73.7%の肯定意見にとどまった。次年度は「読書カード」等の活用を図って充実させる。</p>	<p>・学力向上の取組は、今後も継続する必要がある。特に、課題である考えを書く場面を意図的に設定した授業改善をのぞむ。</p> <p>・読書活動は、うちどくが進むように学校側から一緒に読書する時間を設定したり、「読書カード」に「誰と読みましたか」など項目をつくって取り組むようにしたらよい。</p>
生徒指導	B：おおむね達成している	B：ほぼ適切な評価

<p>改善方策 ①いじめ問題</p> <p>②不登校問題</p> <p>③個別指導</p>	<p>・いじめ問題については、年2回のいじめアンケートに加え、児童への個別相談週間の取組、いじめ防止対策委員会での各学年からの情報収集に効果が見られた。</p> <p>・「いじめはよくないことだ」と答える児童が文章の読み取り不足で答えた子以外100%だったので、次年度も学校全体で働きかけていきたい。</p> <p>・今年度初めて児童会主催による「なかよし集会」を行い、いじめについて考えることができ、次年度も継続して取り組む。</p> <p>・異学年交流や縦割り活動の取組が、児童会を中心に行われ、年上を敬い、年下に優しくすることができ、次年度もさらに多くの取組を進めていく。</p> <p>・不登校問題については、こども支援委員会やコーディネーター会議を通して全教職員で情報を共有する。</p> <p>・担任だけではなく、教務や養護教諭、管理職等も活用した組織的な取組で対応したので、次年度も継続する。</p> <p>・家庭環境が影響する場合、素早くSSW等と連携して対応できるよう外部機関との連携を今後も続けていく。</p> <p>・個別指導が必要な児童や教室内で不適応を起こす児童について、全教職員で組織的に取り組むことができ、今後も全校体制で取り組み、個別に対応していく。</p>	<p>・いじめや不登校の問題については、家庭や外部機関との連携をより一層図る必要がある。「なかよし集会」は効果的であったので、次年度も継続して行うことが有効である。</p> <p>・異学年交流や縦割り活動は、年上を敬ったり、年下に優しくすることができるので、とても友好的で、次年度も継続したらよい。</p> <p>・子どもの情報が全職員に共通理解されていることが分かり、次年度以降も継続して行なうところが有効である。</p>
<p>健康安全指導</p>	<p>B：おおむね達成している</p>	<p>B：ほぼ適切な評価</p>
<p>改善方策 ①体力づくり</p> <p>②安全指導</p>	<p>・体力テストの結果・分析を生かし、課題となる体力を改善するために、運動プログラムを考えて実践していく。</p> <p>・委員会活動を充実し、自主的に体力づくりができるような取組を進めていく。</p> <p>・新たにグラウンドにドッジボールコートを設置したり、的当ての道具を体育館に貼り付け、気軽に楽しめるように工夫した。</p> <p>・児童会や保護者と連携したなわとびの取組を行い、月に2度の検定日を設け跳んだ回数による級を設定し意欲化を図った。</p> <p>・月1回の巡回指導の定例化を図り、地域やPTAと連携した街頭交通指導を今後も継続して取り組む。</p> <p>・学校外の安全指導については、家庭や地域町内会と連携を図りながら取り組む。</p>	<p>・体力テストの分析をきちんと検証し、全職員が体力面での課題について共通認識を持つことが大切である。</p> <p>・休み時間のドッジボールやその他の遊びを異学年一緒に行っていることは大切なので、次年度以降も続けてほしい。</p> <p>・保護者も巻き込んだなわとびの取り組みは、子どもたちの意欲向上にもつながりとてもよい。次年度は、さらに多くの保護者に来てもらえるような工夫が必要である。</p>
<p>管理事務</p>	<p>B：おおむね達成している</p>	<p>B：ほぼ適切な評価</p>
<p>改善方策</p>	<p>・安全を考えた校舎等の営繕管理、営繕要望をこれからも続けていく。</p>	<p>・保護者から改善要望が出されているものの対処をのぞむ。</p>
<p>保護者・地域との連携</p>	<p>B：おおむね達成している</p>	<p>B：ほぼ適切な評価</p>
<p>改善方策</p>	<p>・図書ボランティア『ひだまり』や地域の人材等が有効に活用されている。次年度は、クラブ活動の指導者に地域人材の活用を考えている。</p> <p>・学校の活動内容が保護者に伝わっていないことが分かり、もっと積極的に教育活動を発信し、学校に足を運んでもらえるような工夫が必要である。</p>	<p>・図書ボランティアの新規製作物は、人数不足を考慮し、他校と連携し活用を図る。</p> <p>・クラブの指導者は、老人クラブの活用、花屋や町内会への働きかけ、コミュニティスクールの会議でも話題にしていく。</p>
<p>公表方法</p>	<p>学校だより、ホームページ</p>	<p>学校だより、ホームページ</p>

3 添付資料

※学校評価に係る資料（集計結果と考察、学校だよりなど保護者や地域への通知文書）を記載する。